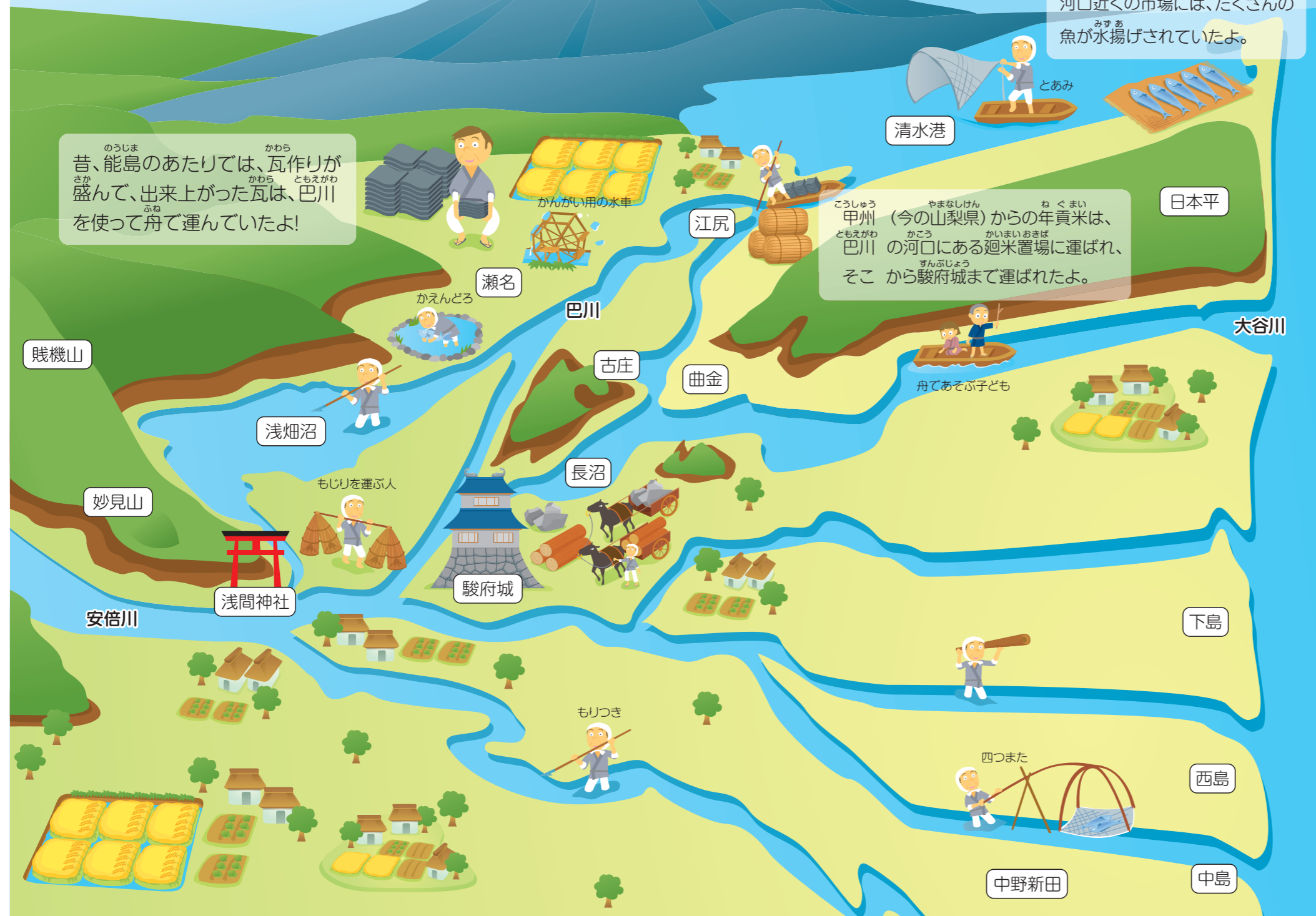


川と暮らし

昔の人たちは巴川の水を日常の暮らしの中で利用していました。
どんな風に使っていたのかな？



駿府城ができる前は、安倍川の水は巴川の方へ流れていたんだよ。

河口近くの市場には、たくさんの魚が水揚げされていたよ。

昔、能島のあたりでは、瓦作りが盛んで、出来上がった瓦は、巴川を使って舟で運んでいたよ！

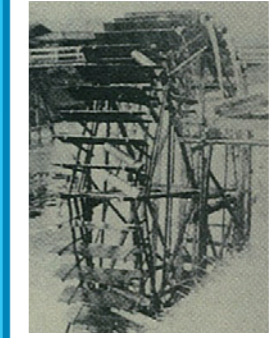
甲州（今の山梨県）からの年貢米は、巴川の河口にある廻米置場に運ばれ、そこから駿府城まで運ばれたよ。

ともえがわ 巴川を行き交う舟

田んぼへの行き来やいろいろなものを運ぶために舟を使っていたんだよ。



稚児橋の下流・昭和6年



水車

ゆっくりと陽を浴びて温められた水を、田んぼへくみ上げて米作りに使っていたよ。



駿府城築城の石

駿府城を直すために、船で運んでいる途中で落としてしまった、大きな石が見つかったよ。今も清水区にある巴川製紙の門に使われているんだ。

豆知識 水の道

江戸時代の巴川は、今より川幅が広く、水も豊かに流れていたんだ。
そこで徳川家康は、その流れを物資の輸送に利用する計画を立てて、江尻（清水）の港から上土まで川をさかのぼり、沓谷まで新たな水路を開いて駿府から海へとつながる「水の道」を完成させたんだ。

昔の治水

昔の巴川は、流れがゆるやかで、今よりも曲がりくねっていたよ。
 そのため、土砂が川底にたまってしまい、水があふれて、巴川の周りには長い間洪水に悩まされてきたんだ。そこで、昔の人たちは何度も何度も工事を繰り返したよ。

治水ってなに？

治水というのは、川から水があふれるのを防いだり、川の水を流れやすくすることをいうんだよ。
 巴川では、昔から、川の幅を広げたり、川底を掘って深くしたり、水を流れやすくするためにたくさんの工事をしてきたよ。



明治40年(1907年)に、初めて洪水をなくすための大きな工事が行われたよ。



明治43年に行われた巴川の工事の様子(出展: 上土誌)

長尾川と合流するところから、稚児橋までの間の工事をしたよ。川の周りの町や村(3町8村)で、お金を出し合って手作業で工事を進めたんだ。曲がりくねった川をまっすぐにして、距離を短くし、堤防を作り上げたんだ。
 この工事は5年後の大正元年(1912年)に終わったんだ。

1694年
川底を掘った



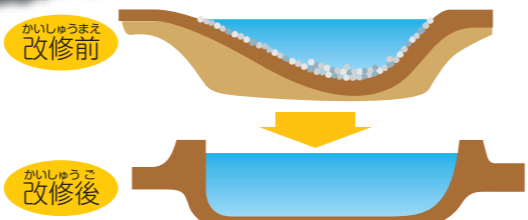
1708年
石垣を直した



1711年・1730年~1826年
川さらい



まめちひき 豆知識 川さらってどんなこと?



川の幅を広げたり、川底を深く掘ったりしたんだ。